



天神山見て歩き ガイドマップ

- あずまや
- トイレ
- 車椅子用トイレ
- 展望台
- 水飲み場
- 駐車場



①精進川
精進川という名前は、「オ・ソ・ウシ(川原に池があるところ)」というアイヌ語が、「オ・ショウシ」「オ・シヨシ」とだんだん変化して呼ばれるようになったものとされています。ここでいう川原の池とは、天神山の西のふもとにある落差約2mの小さな滝のことです。昔はその滝までが精進川と呼ばれ、昔の豊平川と合流していました。



②天神藤
藤の花はきれいに育てることが難しく、肥料や手入れの方法など、色々研究しながら育てられてきました。毎年5月下旬から6月上旬にかけて薄紫色の美しい藤の花が頭の上いっぱい広がります。
詳細は6ページのコラムを見よう!



③展望テラス 芝生広場
サクラ、シラカバ、モミジ、ツツジなどたくさんの種類の木々が育っていて、その間から藻岩山をはじめ、円山、三角山などともに札幌のまちをのぞむことができます。



④天神山アートスタジオ
平成26年(2014年)にオープンした国内でもめずらしい種類の文化芸術施設です。世界中から色々なアーティストがやって来て、滞在しながら作品づくりや調査・研究ができることが特長です。アーティストと交流するイベントや、だれでも入れるスペースで卓球やピアノ、絵本やおもちゃで遊ぶこともできます(開館時間8:45~21:00。休館日 毎週月曜日(月曜日が祝祭日の場合はその翌平日)・年末年始、TEL011-820-2140)。



⑤日本庭園
札幌軟石をはじめ、日高石、社管石など北海道生まれの材料が使われており、北海道・札幌の気候や風土に合うように設計され、平成2年(1990年)に完成しました。



⑥相馬神社
相馬神社は、明治35年(1902年)に福島県相馬郡太田相馬神社の神さまをうつしてまつり、明治41年(1908年)に神社として認められたことからはじまりました。神社の境内には、樹齢300年をこえるシバクワのご神木や馬頭観音尊像、平岸の開村50年を記念して建てられた記念碑などがあり、毎年9月のはじめにはお祭りが開かれています。
※馬頭観音尊像…黒拓で重要な役割を果たした馬たちの魂が安らかに眠ることができるように建てられたもの

精進川はとてもきれいな川で、氷がつくられていたこともあります

かつてはこの地域、いっぱいリンゴ園が広がっていました

詳細は5ページのコラムを見よう!

バス停 平岸1-16

この辺りに小さな滝があります

馬は農業をするうえで大事なパートナーだったため、みんなで大切に世話をしていました

現在、地下鉄南北線が走っているところには、かつて「定山溪鉄道」の線路がありました

急な坂道を登った先に神社があります

この辺りで「チャン」跡が見られました

かつて用水路だったところは、現在南区の方から天神山緑地まで続く遊歩道として整備されています

詳細は6ページのコラムを見よう!

詳細は2ページの天神山の歴史を見よう!

かつては水田地帯で、秋になるとお米のいなかの辺り一面に広がっていました



⑫アンパン道路
アンパン道路は、町役場の移転にもなって、平岸と月寒を結ぶ道路として明治44年(1911年)に完成しました。工事ははじめたときは、立を切りひらいたり、水田を埋め立てたりするなど難しい工事をしなければいけない状況でしたが、当時月寒に駐屯していた陸軍の協力により、わずか5か月間で完成しました。道路をつくるときに、兵買たちにあんぱんが支給されたことから、いつしか「アンパン道路」と呼ばれるようになりました。



⑪平岸林檎園記念歌碑
この碑は、かつて平岸が北海道で最初のリンゴ園が誕生した土地であったことを未来に伝えるとともに、リンゴ園の発展に多くの力を尽くしてくれた当時の人々への尊敬・感謝の気持ちを込めて、平岸・澄川地区のリンゴ農家の方々によって昭和41年(1966年)に建てられました。碑には、石川啄木の歌が記念に刻まれています。



⑨平岸天満宮・太平山三吉神社
平岸天満宮は、明治36年(1903年)に福岡県出身の南郷源蔵氏がふるさとの福岡県太宰府天満宮の神さまをうつしてまつったことから始まりました。また、昭和57年(1982年)には、この地に秋田県大平山三吉神社の神さまがまつられました。現在では平岸天満宮と大平山三吉神社の名前が一緒に記されています。毎年6月にはお祭りが開かれています。